

# 佐保会兵庫県支部だより

## 第32号

佐保会兵庫県支部事務局 神戸市西区伊川谷町潤和1425-15  
〒651-2124 TEL・FAX078-975-0063



玉田 れい子 (S45 理物) 画

### 心の風景

川口 志ほ子 (S19文)

夜半の寝ざめにふとわが人生を思い返すとき、そこに様々の追憶がくり広げられます。わが人生も最終楽章に入ったことの證でありましょう。臉にえがく思いは、また風景を伴います。ことに、奈良の風景が……。八十余年の生涯のうち、四年に満たない「奈良時代」ですが、その「風景」がかくも鮮やかにわが裡にインプリントされていていようとは。

「あなたのも一度訪いたい地はどこ？」ときかれたことがありました。正倉院の池です、も一度、あの汀に立ちたい——と答えたのですが、聴き手はどきまぎなすったようでした。正倉院の池——はその静かな深い池のすがたと言ひ、池をめぐる木々のみどりと言ひ、いのちの静寂さがみなぎっていました。悩みを秘めて歩を運ぶ女子学生のわたしを、深みどりでうけとめてくれるようなた、ずまいなのでした。いま、も一度訪ねたいと私が言うのは正倉院の池という風景ではなく、そのほとりを一人歩んでいった若い私の、たっぷりと所有していた未来の時間が、ただ無性にいってしまった故にほかなりません。

考えにふけて、いつか二た巡りしてしまっていた、かの日の正倉院の池の堤を、私はもう踏むことはないでしょうが、心の風景の中ではそれを静かに踏みしめているのです。

呼べるものなら呼びもどしたい青春の痛みであり、呼べども返ることはない「時」の流れであります。若い私はこんなに歌っていました。

#### 寧楽惜別

きららかに野路行かなむよ遠世びとも

仏に光背はつけまるらせし

鹿の眸のかくかく澄むを哀しかも

夕べはひとのまなこつかれぬ

去りゆきて遙かなる日も若鹿は

まなこつぶらに夕を群るるべし

われの身に若草山のさみどりの

沁みたりと思へ四とせ過ぎたり

こんなに歌って卒業していったのです。私達は昭和十九年九月が卒業でした。雪崩の崩れ落ちるような敗戦が眼前にあったのですが、私達卒業生は、不安いっばい、かつ、若さいっばいの旅立ちでした。あらゆる意味での大きな変動を、私達は身をもって味わって生きたのです。恩師とも、再会の時が与えられようとは思っていない——思うことも許されない時勢でありました。「先生、お元気でいらして下さい」と精一杯ことばにすると、恩師は首をかしげてゆるく振りながら「どんな時代の中に歩み出すとしても、君達は春秋に富んでいるのだからね」と仰言ったことは忘れません。そして年を経るほどにこの言葉の深い意味が感得出来るのです。心の風景を、私は折り折りに臉に浮かべる此の頃なのです。



# 平成20年度 佐保会兵庫県支部総会

平成20年5月10日(土) 舞子ビラ神戸 五色の間

早朝からの五月雨に洗われ、新緑がいつそう鮮やかな五月十日、舞子ビラの五色の間で平成二十年度佐保会兵庫県支部総会が盛大に開催されました。参加者は七十名近くにのぼり、会場は出会いの喜びに満たされていました。

そして、いよいよ開会となり、まず最初に全員で物故者へ黙祷を捧げました。続いて、山本よしみ支部長から挨拶と新入会員の紹介がありました。その中で名簿作成の進捗状況についても言及されました。それから、事業報告、会計報告、役員紹介があり、「卒寿・卒後五十五年」のお祝いと記念品が披露されました。そして、今年の春の叙勲で乾登美子様(S36文社)が藍綬褒章を受章されたことの報告を受け、出席者全員でその栄誉を称え、祝福しました。

また第一回から欠かさず支部総会に出席されている加藤咲子様(T15文)から「この支部総会を立派に運営していただけて感謝しています」等のご挨拶があり、私たちは人生の目標であり、まず大先輩から大きな力をいただきました。次に、武庫川女子大学教授・言語文化研究所長の佐竹秀雄氏から「サタケさんの日本語教室」と題された講演がありました。

資料も準備していただき、クイズ形式の問題に答えながら、敬語や諺の正しい用方を学ぶことができました。楽しく、有意義なお話を伺い、大変参考になりました。

その後休憩をはさんで、伊賀正子様(S16A家)の、ユーモア溢れる乾杯のご発声があり、会食となりました。豪華な会席料理に舌鼓を打ちながら、各部からの丁寧な報告を受け、最後に出席者全員で校歌を大合唱し、来年度の支部総会での再会を約束して閉幕となりました。散会后、外に出るとまだ雨はしっかりと降り続き、それは私たち佐保会員の心の絆をさらに深めてくれるようでした。



加藤咲子様 (104歳)

## お慶び

### 藍綬褒章受章

乾 登美子様  
(S36文社)

## 卒寿のお慶び

竹内みずほ 様 (家)  
北川 秋子 様 (理)  
陸井 明子 様 (保)

## 卒後55年のお慶び

岩城 圭子 様 (理化)  
松浪美年子 様 (文地)  
赤川 範子 様 (理家食)  
矢島 泰子 様 (理家植)  
佐久間かず子 様 (文国)  
野島恵美子 様 (理教)  
植村 彰子 様 (理物)  
松本 雅子 様 (理家被)

## プログラム

物故者に対し黙祷

1 開会のことば

2 支部長挨拶

3 新入会員紹介

4 議長選出

5 講事

① 平成19年度事業報告

② 平成19年度会計報告

③ 平成19年度会計監査報告

④ 平成20年度役員承認及び紹介

⑤ 平成20年度事業計画

⑥ 平成20年度会計予算

⑦ その他

6 記念品贈呈

① 卒寿のお祝い

② 卒後55年のお祝い

7 講演

講師 武庫川女子大学教授  
言語文化研究所長

佐竹 秀雄氏

演題 「サタケさんの日本語教室」

休憩

8 来賓の挨拶

9 会食

10 各部報告

① 本部報告

② 佐保短大報告

③ 大学婦人協会

④ 「樫の会」報告

⑤ 「睦会」平成20年担当者紹介

⑥ 第32号「支部だより」編集委員紹介

11 校歌斉唱

12 閉会のことば



講 演  
サタケさんの  
日本語教室

武庫川女子大学教授  
言語文化研究所長  
佐竹 秀雄氏



話しことばについて、昔は伝統的に相手に気付かせるために婉曲な表現をしてきました。しかし、今は若い人中心に自分のために断定的に言わず、やさしさを求める軟らかい話し方をします。それを「表現のソフト化」と称され、「とか（とか弁）」、「じゃないですか」、「わたし的には」などの例をあげられました。

そして、ことばの使い方で、それを「乱れ」ととるのか、「変化」とみるのかについて「全然」を例にとり説明さ

哀 悼				
西村 實枝子 様	(S 16 保)	H 18. 5 .18	没	
宮川 セツ 様	(S 10 理家健)	H 19. 4 .13	没	
栗飯原 敬江 様	(S 16 文)	H 19.10.23	没	
大西 千恵 様	(S 11 家)	H 20. 1 .10	没	
東 卓子 様	(S 30 文国)	H 20. 3 .11	没	
村上 恵美子 様	(S 5 理)	H 20. 5 .5	没	

れました。それから、書き方が変化しましたことば、意味が変化した例、音が変化したものなど、クイズ形式で楽しく、平易に解説されました。

最後に日本語の将来について話されました。ことばの変化はことばそのものが起こすのではなく、ことばを使っている人間が起こしているのです。だから、私たちがその使い方をよいと認めて使ったときに、はじめてことばに生命が吹き込まれるのです。

講演会は明るい笑い声が絶えず、終始和やかな雰囲気で行われました。そして、佐竹先生への謝辞もこの講演を生かした、的を射たものでした。

名簿のこと佐保会館のこと

支部長 山本 よしみ

昨年お願いしました名簿作成原稿を元に印刷原稿ができました。校正・印刷にかかります。原稿の回収率は残念ですが、五割弱でした。十一月に「支部だより」と一緒にお届けします。「不要」と書かれた回収者の二割強の方にも送ります。結果は次回の思案材料にします。名簿は佐保会員の親睦を深めるためにのみ大切に活用して下さい。

昨年、佐保会館の修復工事が会員の支援によって完了しました。五月二十二日に榎の会のバスツアーに参加した二十五人で訪問して、大学時代の思い出のひとつに浸り絆を確かめてきました。機会を見つけて訪れてみませんか。跡形の残っている机や廊下に触れて昔を思い出してみませんか。

また、兵庫県支部が贈ったリフトに腰掛けて二階に上がってみませんか。

六月二十五日記す

平成 21 年度支部総会

平成 21 年 5 月 9 日 (土)

楠 公 会 館

J R 神戸駅・高速神戸駅  
地下鉄大倉山駅下車

平成 20 年度 新入会員名簿

学 部	氏 名	地 区	学 部	氏 名	地 区	学 部	氏 名	地 区
文古代	大 原 とも子	姫 路 市	理 物	才 原 絵 理	東 灘 区	生 環 生	久 保 木 彩	川 西 市
文古代	坂 根 千 尋	須 磨 区	理 物	藤 田 奈 津 子	東 灘 区	生 環 経	上 田 真 央	猪 名 川 町
文比歴	尾 方 薫	三 田 市	理 化	浅 野 綾 子	東 灘 区	生 環 経	羽 馬 静	西 宮 市
文比歴	田 中 あゆみ	豊 岡 市	理 化	久 保 田 涼 子	西 宮 市	生 環 住	池 本 佳 織	赤 穂 市
文比歴	南 亜 希 子	西 区	理 生	今 北 麻 紀	三 田 市	生 環 住	磯 部 絵 理	三 田 市
文言情	今 井 雅 恵	三 田 市	理 生	上 田 佳 菜 子	東 灘 区	生 環 住	田 中 未 香	生 駒 郡
文教文	山 科 明 香	出 石 町	理 生	植 西 由 美	西 宮 市	生 環 住	青 木 志 保	相 生 市
文人関	鍋 野 あかね	東 灘 区	理 情	内 田 有 紀	朝 来 市	生 環 住	市 居 愛 子	芦 屋 市
文スポ	東 山 純 子	須 磨 区	理 情	小 堀 由 貴	加 古 川 市	博 前 人	藤 原 安 希	西 区
理 数	上 田 裕 子	洲 本 市	生 環 食	堀 晴 香	東 灘 区	文 スポ	山 崎 瑠 衣	明 石 市
理 数	太 田 由 美	西 宮 市	生 環 生	金 澤 夏 緒 里	西 宮 市	理 数	庫 本 真 理 子	伊 丹 市



## 私のねがい

私たちが日々の暮らしの中で、家族や職場や社会に対して抱いている願いを綴って下さるようお願いしましたところ、今の世の中を反映して、少子問題、高齢化、子育て後の再就職、老人介護等、私たちにとって関心の深い事柄についての願いが多く寄せられました。長年、研究課題として取り組んでこられた方々のご意見や、自分の体験を通して感じられた思いを、私たちも共有させていただきたいと思えます。

若い皆さんへ

高齢者からのお願い!

貴田 康乃 (S29家住)

私は、家庭科教師として五十年間教壇に立ってきた。今は後期高齢者の一員である。その立場から一言。

新聞では、毎日のように少子・高齢化という言葉がみられるが、私にはどうも高齢化の方が悪者扱いされているように思えてならない。

私は、少子化の最大の原因は男性の「男は仕事、女は家庭」という従来からの性別役割分業意識が強く、その上、働く女性にとっては「男は仕事、女は家庭と仕事」という二重の負担となる役割分業意識があるからであると考えられる。厄介なことにこの性別役割分業意識(ジェンダー観)は、家庭の中で親から子へと伝承されていくことが私たちの行った調査で明らかになっている(奈良女子大学家政学研究Vol.49-12)。

この役割分業意識があることによって、結婚しない女性や、結婚しても子供を産もうとしない女性が増えているのが現状である。この男性の性別役割分業意識を変えない限り少子化問題は解決

称で採択されました。

中学校や高等学校の家庭科教員の免許を持ちながら、教壇に立っておられない方に、教師勤を取り戻し自信をもって教壇に立ってもらいたい。そんな願いが実現しました。家庭生活や子育て、地域社会とのつながり、企業での勤務などの貴重な経験を、家庭科の授業に生かして欲しい。家庭科教育に広がり深まりができ、一層活性化が図れるのではないかと常々考えておりました。

講座は半年をI期とし、現在II期目、受講者は二十五名です。I期を終えられた方のうち二名は四月から臨時講師として勤務され、II期目の方にも早々にお話をいただき、四名の方が臨時講師として勤務されはじめました。

講座は毎週土曜日で、学校教育に関する法規、新しい学習指導要領、生徒相談やカウンセリング、中学・高校の現状、家庭科教育の指導方法など。大学の教育学科、家政学科の先生方や現場の家庭科の先生方のご協力を得て実施させていただいています。

「下の子どもが小学校にあがったら働きたいと思って」と須磨キャンパスまで車を走らせて来られる方、お母さんの学ぶ姿が、お子さんの学ぶ楽しみを育むことでしょう。

小さな願い

大きな願い

出田 美栄子 (S45文教)

最近、悲惨な事件や自然災害で日常生活が破壊されたり、世界に目を向けると、イラク戦争を初め、不幸な出来

事がたくさんあり、心が痛みます。今神戸新聞朝刊に連載中の『穂足のチカラ』に描かれている、キリストの生まれ変わりのような穂足君の力によって、みんなが善人になり幸せになっていく、という夢物語が実現したらいいのにと夢想してしまいます。

しかし、様々な問題解決に何か行動を、と思いつながら毎日が過ぎて行きます。八年前に退職してから、実父、義父母を見送り、孫の世話をしたりしていましたが、今は、自分の趣味の生活が主になり、二、三年前から音楽の心地良さに魅かれ、合唱の練習やコンサートを聴きに行くことが生きがいになっています。いつか『きれいなハーモニーがうまれると心が震える』という体験をすることが、今の私の小さな願いです。もちろん、家族の幸せも。

昨年、もより会のお世話をして、大先輩の村上恵美子姉が近くに住んでおられることを知り、お伺いして学生時代の思い出話を聞かせていただき、感動しました。今年、白寿を迎えられた記事がある機関誌に掲載されているのを見て、またまた感動しました。俳人、永田耕衣が、「長生きは共のうち」と言っていますが、元気で、気力を保って年を重ねていくことが、大きな願いです。

「命のリレー」によせて

橋本 佳久子 (S46理数)

「国のまほろば」と歌われた地を巣立ちいつの間にか三十七年の月日が流れました。その間、三人の子供達に恵まれその成長に一喜一憂し、夫の母と私

叶った!

学び直しプログラム

中井 昌子 (S43家食)

「もう一度 学んでみませんか?」これは、私の勤務する大学で開講している講座のキャッチコピーです。

十九年度文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に応募し、「子育てに一段落した女性やペーパーティーチャーの家庭科教員・臨時講師への道を拓く」という事業名



の両親を見送り、私自身も時々ダウシしながらも、過ぎてしまえば夢の中の歳月でした。この原稿依頼のお便りをいただいた日に二人目の孫が誕生しました。二才離れて上の孫がいますので、おばあちゃん大奮闘の大変な、それでも幸せな毎日を送っております。この上の孫、私共にとりましては初孫が生まれた時、主人は娘に「命のリレーに会わせてくれてありがとう」と涙して申しておりましたが、思えば私の母も同様の事を口にしておりました。「私の命がこの孫達の中で続いていくと感ぜられてうれしく心が温かくなる」と。

当時私は仕事をしていたので、母にはよく世話になりました。今、自分と同じ立場になって、「大変だったろうな」と思うのですが、浮かぶのは喜々として孫の世話をする母の笑顔ばかりです。夫の母はよく「もし戦争になったら、この子（夫のこと）のかわりに貴方が行って下さいね」と義父に言っていたそうです。今では笑い話になっていますが、戦争を身をもって体験した人の偽らざる心境で、戦争への怖れと息子への深い愛情が感じられます。

今、飽くこともなく電車に手を振り、また庭のカタツムリに話しかける上の孫ただひたすら母親の乳房にしがみついている下の孫、この子達との日々が重なるのを喜びつつ、どうぞ彼らの未来が平和で、穏やかだと願うばかりです。

## 私の願い

川崎 万紀代 (S52 理修数)  
かけがえのない人を、今年一月に失っ

た。そう呼ぶだけで、懐かしさとともに温かさが伝わってくる「お母さん」。私の母は、生後すぐに実母をくし、満足な栄養も与えられなかったため、生来病弱だったと聞く。

しかし、貧しい実家の手伝いや、兄弟の家の手伝いをしながら、徐々にたくましさや生活力を蓄えていった。

苦勞の末、父と出会い、結婚したものの、戦後の貧しい生活を余儀なくされた。私の幼い頃の思い出は、家族で時折レストランにとんかつ定食を食べに行つたことと、母が私たち姉妹の洋服を縫ってくれたことだ。今も、その服を着た私たちの写真が、大切にアルバムに貼られている。

家族思いで、身を粉にして働きながら私たちを育ててくれた母が病に倒れたとき、私は仕事と介護の板ばさみの中で、これまでの母との楽しかった歲月すら思い出す心のゆとりを失ってしまった。

そこで、私はつくづく次のことを願う。「いくつになっても、病気になるっても、たとえ痴呆になっても、人としての尊厳を傷つけられることのない社会であってほしい！」

看護や介護をする側も、される側もお互いに安心して任せ合い、自分の尊厳が保たれていることに心の平穏を維持できるような社会を。

## 昭和ノスタルジー

渡辺 泉 (S51 文史)  
風景①  
春には薄紅色のレンゲに彩られ、初

夏には、みはるかす水面に早苗がそよぎ、夏の暑さを糧として、秋には瑞穂が頭を垂れる、美しく豊かな日本の原風景……。

いつからでしょうか。水田から吹き渡る涼風がとだえ、蛍の乱舞が見られなくなり、夏の暑さが耐えがなくなつたのは。いつの頃からでしょうか。そして、日本の食料自給率が低下していったのは。

ふとんの中でまどろんでいると、ネギを刻むリズムカルな包丁の音、みそ汁のにおいが漂ってくる。昭和の朝の原風景です。家族全員がちやぶ台を囲んでの朝ごはん。家族という絆がまた、しっかりと結び込まれていた時代。

いつからでしょうか。家族が別々に食事をとるようになったのは。いつからでしょうか。家族の絆がかくもはかなくなつたのは。

平成もすでに二十年を数え、日々、昭和という時代が遠ざかつていきます。セピア色になりつつある昭和は、日本史上まれに見る激動の時代。その時代からすくいとつた記憶の中には、今、私たちが愛惜の情おさえがたく思い出す原風景があります。かなうことならば、それをたぐりよせて、その中で安らぎたい。失われつつある原風景を追想しつつ、それを再びとり戻せる未来であってほしい。それが私の願いです。

## 子供が溢れる街

勝又 千寿代 (H1 家修被)  
三年程前から大学で「家族」に関わ

る講義を期せずして担当する事になった。家政学部出身の私にはわか社会学者となり、少子化と対峙する事となった。世の女性は何故子供を産まなくなつたのだろうか？ 先行き不安感による夫婦の出生力の低下、晩婚のための子供数の限界、そして非婚。

ここで、婚外子に着目したい。スウェーデンなどで、半数以上を占める婚外子が日本では二パーセント弱である。結婚（法律婚）をした夫婦から産まれた子が嫡出子であり、それ以外は非嫡出子（婚外子）である。嫡出子と非嫡出子は法定相続分に違いがあるが、これはたいした問題ではなく（もちろん問題の場合もある）、現実には戸籍への記載と、その後の差別に苦慮することとなる。すなわち日本では結婚せずに子供を産むことは大変困難な現実がある。最近の若い女性は結婚願望は低くても子供は欲しいと言っている。むしろ種の保存から考えても子供が欲しいのは本能であろう。しかしシングルや事実婚での出産子育てのデメリットを考えた場合、子供を産まない選択も、やむをえないのかもしれない。

法律婚の効能は、社会秩序の統制とすることで理解できるが、時代が変わり魅力が減っているのも事実である。「産まれた子供が嫡出子になれる」というだけでは、むしろ逆効果にもなりかねない。婚姻制度の見直しの時は確実に迫っている。「二人の関係」の多様性をどのように法に反映するか、考える時であろう。



# 楳 (ゆずりは) の 会

## 平成 20 年・21 年 年間行事予定

月 日	内 容	会 場	時 間	講師(敬称略)	備 考
H20. 11. 27 (木)	書道「万葉仮名」	神戸市立勤労会館	13:00~15:00	川口登美子	小筆、半紙など
H21. 2. 26 (木)	ランチコンサート	ドンク(阪急・岡本)	11:30~15:00	土田 景介 田中 靖子	(生活情報に変更 の場合もあり)
3. 26 (木)	食文化 (調理実習)	生活創造センター 4階創作工房	13:00~15:00	織部ミチ子	材料費 1000円
4. 23 (木)	文学「俳句」	神戸市立勤労会館	13:00~15:00	和田 悟朗	
5. 28 (木)	手芸	神戸市立勤労会館	13:00~15:00	都筑久美子	裁縫道具
7. 23 (木)	古典鑑賞	神戸市立勤労会館	13:00~15:00	林 茂代	
9. 24 (木)	書道	神戸市立勤労会館	13:00~15:00	川口登美子	小筆、半紙など
10. 22 (木)	美術鑑賞	神戸市立博物館	13:00~15:00	学 芸 員	解説付き鑑賞
11. 26 (木)	バスツアー 紅葉の宇治を訪ねる	平 等 院 源氏物語ミュージアム	集合8:30 三宮東急イン		費用 4000円 当日のみ参加5000円

※ 入会は随時 佐保会員以外の入会も歓迎 ※ 会費 年間 1000円、当日のみ参加 300円

### 平成20年度 運営委員

鈴木 久子 (06-6491-9481) 寺田 翠 (078-911-5364) 三枝 瑠子 (078-252-2848) 西池 節子 (078-592-4634)  
川口登美子 (072-793-9624) 射延 瑞枝 (0794-84-1998) 大塚かよ子 (079-222-2671)

### 文学散歩 「平家物語と兵庫津」に参加して

永田 登喜代 (S 45 理数)

四月二十四日午前十時JR兵庫駅に参加者全員が揃いました。この日の講師は岩城尚子さん (S 33 文国) で、先生ご自筆の、美しく詳しい大部の資料をご用意いただき、その資料を基に行程説明がありました。そして私達十七名はその貴重な資料を胸に抱き、雨の中しっかりとした佇まいの兵庫の町を歩き出しました。「能福寺」では「兵庫大佛」、神戸事件の「滝善三郎」や東播磨にも縁のある「ジョセフ・ヒコ」についても詳しく説明して下さいました。それから河畔に植えられた花々が美しく咲き匂う運河沿いの道を散策し、松王丸の哀話が残る「築島寺 (来迎寺)」を後にして、岩城先生お勧めの美味しいお鮓を堪能しました。そして「兵庫城跡」、一遍上人の立派な墓所のある「真光寺」を訪れ、その清浄とした雰囲気と心が洗われました。続いて「清盛塚」、「琵琶塚」を巡り、平清盛の栄枯盛衰に想いを馳せました。次に数多くの慰霊碑のある「葉仙寺」を参詣し、記念写真を撮り、解散となりました。初めて訪れた兵庫の町を、岩城先生に解説していただき、その素晴らしさに感動した、有意義な一日でした。



### 「楳の会」に思う

寺田 翠 (S 37 文幼)

五月晴の下、霊験灼な霊山寺の本堂 (国宝) 二重塔などを拝観したあと、人生の輪廻をテーマにした広い庭に、二千株の薔薇が咲き誇っていました。その輝きと甘い香りにすっかり陶醉したのは、五月二十二日、楳の会のバスツアーの日のことでした。勿論美しく改修された佐保会館も訪ねました。その風格と荘厳さを備え威風堂々とした佇まいに私たち一同感服いたしました。懐かしさと愛しさの籠った爽やかな一日となりました。

私は熟々思いました。楳の会の中で素晴らしい講師の方々に恵まれ参加者の方々に恵まれ、心豊かに育まれていることを。感謝。

これからも運営委員が努力を重ねて充実した活動内容を展開して行きたいと思えます。そしてますますあなたかあ人の輪が広がって行くことを願っております。皆さまのご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。楳の会の全容をご覧下さって、いつでも、どなたでも、ご参加下さい。





平成十九年度報告

山崎 渺美 (S39文教)

第三十二回睦会は、十一月十日(日)

舞子ホテルにて開催されました。好天気のもと大15〜昭41卒の41名が参加され(名簿では大13〜昭44 454名)、会食懇談、講話、自己紹介となごやかなひとときが持てました。最長老の加藤先輩と京都在住の方が阪神大震災以来の再会をはたされるといふドラマもありました。講話は世話役同期の長田さん

睦会

による、長寿社会にふさわしい『哺乳動物における寿命』で、「脳が重い動物ほど寿命が長い」そうです。

「青春とは人生のある時期をいうのではなく、心の様相をいうのだ」(S・ウルマンの詩)という、講演のしめくくりのことばにふさわしい雰囲気のお会だったと思います。

睦会平成二十一年度担当  
昭和四十一年卒業生

北区もより会について

吉本 由紀子 (S31文地)

造成間もない団地に住みついて二十余年余となりました。転居して程なく、先輩の御宅での同窓会に寄せて戴きましたが、その後は無沙汰を決めこんだ私に、昨秋お誘いを戴き、オズノと出席という次第です。

北区では、はじめの頃、各御家を開放しての家庭的で温かい集いを重ねられて来たとか。その理念(一寸大きさ?)で以って、しあわせの村(での楽しい「もより会」が今後も続けられたいと思っております。

最近では「オルゴール館」「ひと未来館」そしてフォークダンス等々、昨年は校歌を深め、今年、たまたま話題に上がった寮歌や創立記念日の歌などに思いを馳せ、計画中です。活動の様子はホームページへどうぞ。

もより会

川西もより会の報告

萬代 千鶴子 (S31文教)

民家に溶け込んだ、ずまのの小学校理家が本日の会場。純和風の設えが心を和ませる。総勢十一名。喜寿を越えてなお地球上をなめ尽くすように旅行を続けておられる先輩が乾杯役。一年ぶりの再会とあれば身上変化を余儀なくさせられたりで楽しい話ばかりではないが、内なる心をさらけ出せる雰囲気と真剣に聞いてくれる仲間がいると、心が開かれ笑いを誘う話にも繋がっていく。老いの坂は厳しいけれど、仲間との情報交換で切り抜ける策を手にし趣味の世界を楽しむ希望が湧いたという話や、三人姉妹のドライブと鉄道のカナダ旅は、女性らしくもあり、度胸のある勇敢な話と感心したり。近場での集まりは気軽に参加し易い。心の解放出来る仲間との交流の場としての「もより会」であり続けたいと思う。

平成20年度 もより会 地区リーダー

地区名	氏名	卒業年学部	電話番号	地区名	氏名	卒業年学部	電話番号
東灘区	平井通恵	S47 家被	078-843-8606	明石市	寺田翠	S37 文幼	078-911-5364
	小蒲恵子	S49 理物	078-857-9203		橋本陽江	S50 理修化	078-911-1315
灘区	丸谷宜子	S45 家修食	078-861-6885	加古川市	永田登喜代	S45 理数	079-423-5198
	山田登喜	S47 理化	078-843-4339	高砂市	田中明子	S43 文幼	079-492-0323
中央区	川上ミドリ	S46 文修教	078-222-2391	稲美町	森本寿美	S49 理化	0794-82-4181
兵庫区	古田貴美子	S59 家修被	078-672-0691	三木市			
長田区				加東市			
北区	吉本由紀子	S31 文地	078-743-6853	多可町			
	岡三佐子	S34 文国	078-581-1872	西脇市			
須磨区	光記久子	S35 文幼	078-793-2661	小野市			
	大橋節子	S41 文英	078-792-1440	加西市			
垂水区	松浦博子	S36 家食	078-783-8006				
	大田奈緒美	S37 理化	078-783-3438	姫路市	桂美穂子	S46 理植	079-253-4347
西区	山中邦子	S53 文英	078-991-2506		吉井裕子	S46 家被	079-253-6288
	新小田淑子	S59 理化	078-997-0069	相生市			
尼崎市	辻本久代	S40 家食	06-6489-0147	赤穂市			
	山城隆子	S40 家家食	06-6491-3467	用町			
西宮市	田中佳世子	S40 文国	0798-33-0252	たつの市			
	山川泰子	S41 文国	0798-70-3845	粟市			
芦屋市	山崎渺美	S39 文教	0797-32-5218	河野町			
	福井千佳子	S40 理化	0797-22-5626	神河町			
伊丹市	都築映子	S37 家食	072-782-3407	但馬地区	米田純子	S40 理動	0796-69-1728
	建林章子	S38 家家被	072-778-5517	三田市	河野薫子	S41 理化	0795-62-1730
宝塚市	向山安子	S35 家住	0797-89-7185	篠山市	小林嘉子	S37 家被	0795-52-3690
	中島恵美	S50 理物	0797-72-0782	丹波市	三角三紀子	S44 理数	0795-70-8111
川西市	川田多栄	S45 家住	072-794-0364				
猪名川町				淡路地区	由井弥生	S42 家被	0799-52-0515



# マイブーム

年代は違えども、奈良の地の同じ学び舎で学んだ私達。大学を卒業し、仕事や家庭や友情や大切なものを築いてきています。そして出会った自分だけの宝物——最初は小さなマイブームが今では、人生を彩るかけがえのないものとなっている——そんなお話をいくつか寄せていただきました。

## ヨーガと私

塩谷 迪代 (S34家食)

「ヨーガを始めたきっかけは？」とよく訊かれます。忙しい日々、疲れて鈍く重い身体を引きずりながら生きてきた私。病気ではないけれど健康ですとも云えない……。

そんな中で近くのヨーガ教室をのぞいてみました。「一緒にどうぞ」と言われヨーガ体験。これならできるとも？二、三時間後、何とした事でしょうか、体の中を血が駆けめぐると、体の中がざわざわと騒いでいる。驚きと共にヨーガの中に身をおきたいという渴望。そしてヨーガ入門。

アーサナ(体操)、調気法(呼吸法)、瞑想。自分の中をみつめていくこの行法は大変奥深く、不思議な世界をもっていました。

いつしか指導者の末席に身をおき、そして私の体は軽やかに、元気に、自然という大きな懐の中に生かされる自分を感ぜられるように変わっていました。

ヨーガブームと云われる昨今、美しさの為にやすやすヨーガが巷にあふれています。それも又、良しとしつつ、心も

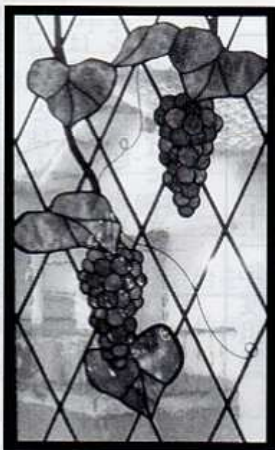
かわれば体もかわると云われるヨーガ本来の行法のすばらしさから離れないで、と願います。

インドに始まり、五千年の歴史をもつヨーガは、心と体の健康法として私に沢山の恩恵を与えてくれました。ヨーガの中に生きる幸せを日々感謝しつつ……。

## ステンドグラスに魅せられて

目加田 裕子 (S40家食)

ステンドグラスを習い始めて、足掛け12年になる。習い始めたきっかけは、勤務校で担任をした卒業生の誘いでその人が習っているステンドグラス教室の作品展を観に行ったことである。



色とりどりのガラスが絶妙に組み合わせられ、光を受けて神秘的に輝いていた。こんな美しいランプが家の中にあればどんなにいいだろう。しかも自分の好

きなように作れたら……と即入門を決意した。

ステンド作品を作る工程は、自分の感性でガラスを選び、自分の手でガラスを切り、ハンダ付けをする等、ほとんど手作業である。出来上がりは勿論、頭のなかにえがいて作るのであるが、まだ未熟なせいなのか、そのとおりにはいかないことが多い。ところがそれが必ずしも悪いことではなく、度々の失敗にもめげず、コツコツ作っていると、ガラスの組み合わせやハンダの仕方で自分の想像以上となるという褒美がつくことがあるのである。出来上がって光を通す時のワクワク感は何ともいえない。ステンドグラスが光の芸術といわれるのがよくわかる。作品はランプが多いが、家を建て替えた際、かねてからあこがれていた窓や戸にもステンドをはめることが出来、ほんとにやっていたよかったです。

ただ、家中のあちこちに置かれどんどん増えていく作品が、そのうち家族を悩まし始めるのではないかと少し不安である。

## 趣味の木彫

小林 由美子 (S43文専英)

「下の手に手がかからなくなると、何か趣味を」と思った時、子供の頃に父が文机や小引出しを日曜大工で作ってくれた時の木の香を思い出しました。その木の香をなつかしく思い、木彫教室に通い始めてから二十数年。時だけがたつてなかなか上達しませんが、彫っていく時の木の香に心を癒されています。

す。四、五時間できあがるブローチや姫手鏡、半年から一年以上もかかるレリーフ、壁鏡や衝立。さまざまな作品をしあげました。失敗作も多々ありますが、その一つ一つに作った時の気持が思い出され、愛着を感じます。

何もない一枚の板を前にして、何を作ろうか、どのような図案にしようかと考える楽しみ。彫刻刀の切れ味。木の材質。彫っていくにしたがって、さまざまに変化する木目。そして一彫りすることに姿を表わし、形となっていくプロセス。板とむかいあい、ひたすらに彫っていく無心の境地。このような楽しみがあるために、今まで続けてこられたのかもしれない。加齢とともに作る作品は、少なくなってきましたが、もう少し続けてみようかと考えているこの頃です。

木彫の音の続ける夜長かな

## リビングで能楽を楽しむ

永福 より子 (S44家住)

「年立ちかへる春なれや。年立ちかへる春なれや。花の都に急がん」

謡曲「東北」より

二年前から謡を始めました。今、和泉式部ゆかりの「東北」を凌いでいます。興福寺の薪能に感動して大学の能楽部(観世会)に入部しましたが、卒業以来四十年間能楽とは離れていました。能楽は謡と仕舞、囃子から成り立っています。ここでは謡だけのお稽古です。稽古場は個人のお宅のリビング。正座しなくてもいいのがありがたい。しかも後のおしゃべりタイムの方が長



いという気のおけないお稽古です。月二回のお稽古日は仕事の合間の貴重なひとときとなっています。大きな声で謡っているシテ(主人公)にでもなったようないい気分です。師匠は神戸市文化賞を受賞された能楽師の佐伯紀久子先生。こんな弟子を相手に熱心に指導して下さいます。少しは能のせりふも聞き取れるようになり、時には能楽堂へ足を運びます。能楽は堅苦しいと思われがちですが、気軽にリビングでお稽古することもできます。以前、もより会で宮田先輩より謡を勧められたことがありました。その時はお断りしましたが「能は楽しい」と言われたことが心に残りました。ようやく私も能楽を楽しめるようになりました。

### 折り紙となかよし

田中 明子(S43文幼)  
私が大阪の幼稚園に勤めていた頃、大先輩の津村節津子先生から当時はまだ珍しかったパンダ、菓子入れになる鶴や立体的な亀など教えていただいた。「いつでも どこでも ちょっとした時間で折ることができて楽しいわよ」とよく言われていた。

津村先生に感化されて私も興味が増し、知らない作品に出会うと、どんなにして折ってあるのかしらとパズルを解くような気分で考える楽しさや、やっこれていいのか、もっと上手に折れないかと確かめるようになったりもした。

折紙では、飾りになる薬玉や四季を彩る風物詩の色紙、鼻や耳の動く象や犬は子どものおもちゃ、指先のリハビリになる花独楽は大人に、実用的な財布など用途も広いのが気に入っている。たまに来られる外国人に折りためたorigamiを差し上げると、軽くて嵩張らず日本の土産として喜ばれる。それに次々と創作する人がいて感心する。本を見たり詳しい人に教えてもらったりし、見習うという言葉を実感して、飽きることはない。近年は目も悪くなり、びしっと折ることが難しくなったり、覚えが悪くなったりしてきた。けれど四十年間もマイブームであり続けたのは、入り口を教えてください。先生の陰と感謝している。

### 洋裁は楽し

吉井 裕子(S46家被)  
「娘の婚礼衣裳を縫わないなんて、何のために洋裁しているの」  
そんな先生の一言が、娘のお色直しドレスを作るきっかけでした。学生時代、あんなに好きだった「縫う事」を忘れて三十五年、ひたすら嫁ぎ先の家業に専念して来た私が、和服リフォーム教室を始めるなんて、誰が考えたでしょうか。

結婚式場で、私の振り袖から作ったドレスを着た娘を見た時、夢か現実か、「作らせてくれてありがとう」と心の叫びが聞こえました。以来、同好の仲間を得て、タンスの奥に眠る和服地達に息吹きを与える喜びに浸っています。

昨年、更に思わぬ付録がきました。近所の小学校の鼓笛隊の衣装を縫ってほしいと頼まれ、仕上がった衣装で子供達は全国大会出場、金賞を射止めた。私は、まるで我が子を送り出す気分です。姫路大会、大阪大会まで応援にかけつけました。さすがに全国大会まではよう行きませんでした。若者のエネルギーに触れる体験をしました。今年ハリーポッターのマントを頼まれて縫っているところです。

歩んで来た人生を振り返り、これから先の人生を思う時、何が起るかかわからない展開にただただ従うばかりです。

### 「景観園芸学校」に学んで

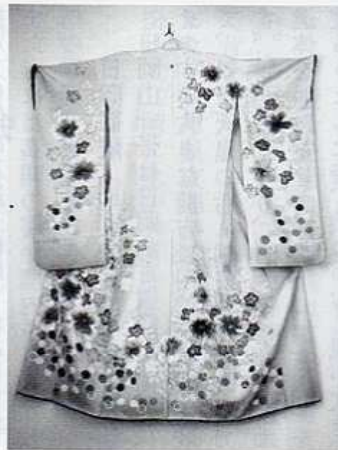
金築 伸子(S53理数)

兵庫県立淡路景観園芸学校を知っていますか。淡路島の岩屋ポートから車で十五分。花さじきの少し手前にある日本で唯一の、園芸とそれを生かす景観の造形を同時に学べる学校です。草花の大好きな私は、四月からこの学校の「まちづくりガーデンナー本科コース」で学んでいます。一学年八十名、月三日、年間三十日のコースです。

学校の十三ヘクタールの広大な敷地には、南欧風のオレンジを基調とした校舎が立ち並んでいます。その周りには様々なテーマのガーデンが配置されています。今はたくさんの花が満開の時期を迎え、アキニレの立つ丘に淡いピンク色の昼咲き月見草が一面に咲くさまは、息をのむ程の美しさです。

四月には、初めて種まきをしました。挿し木の仕方や土づくりも実習しました。実際に土地を測量し、自分なりのガーデンを設計したのも楽しかったです。仲間と話し合っ課題を解決するワークショップも初めて経験しました。私には何もかも新鮮で、これからの花づくりを生かせることばかりです。情熱を持って教えて下さる県立大学の先生方の講義も楽しく、学生に返って学んでいるようです。

何よりも月三日でも緑一杯の自然の中で過ごせることが嬉しい。草花に囲まれて仲間と食べるお弁当は最高です。この学校には、門も塀もありません。いつでも見学自由です。一度訪れてみませんか。





# 東播磨あ・ら・かると



## 加古川市

鶴林寺(地図中の①)  
五八九年、聖徳太子が秦河勝に命じ、  
仏教をひろめるため、この地に「四天王寺聖霊院」が建てられました。そして、十二世紀に「鶴林寺」と寺号を改め、鎌倉・室町時代に全盛期を迎えました。

この鶴林寺は「播磨の法隆寺」と言われ、また親しみを込めて「刀田の太子さん」とも呼ばれていま



私達が暮らす加古川市、高砂市、加古郡稲美町、播磨町は兵庫県下最大の河川である加古川から多くの恵みを享けています。加古川は中国山地を源に多くの支流が合流し、播磨灘に注ぐ一級河川です。母なる川・加古川は長い時の流れの中で一時も留まることなく、過去から未来へと流れ続け、願ひ多き私達をいつも見守り続けています。

また日本最古の地誌といわれる「播磨風土記」にも「賀古郡」「印南郡」と記され、万葉集にも詠まれています。この地の数多くの名所旧跡や言い伝えの一端をここに紹介致します。これを機に私達の故郷「東播磨」にも足を運び下されることを願ってやみません。

境内には国宝「太子堂」や「金銅聖観音立像」など多くの仏教美術が造られています。この観音さんは、ある時、泥棒が盗み出し壊そうとしたところ、「アイタタノ」と叫んだと言われることから「アイタタ観音」とも呼ばれています。

教信寺(地図中の②)  
天台宗の寺院で、本尊は阿弥陀如来です。平安前期の僧沙弥教信が賀古の駅の北、野口に庵を作りました。教信はいつも念仏を唱えながら仏の教えを説いたので、「阿弥陀丸」と呼ばれて

いました。また旅人の荷物を運んだことから「荷送り上人」とも呼ばれました。後にこの庵跡に建てられたのが「教信寺」です。境内の左手奥に教信上人廟(県指定文化財の石造五輪塔)があります。また春には満開の桜が境内を彩り、教信の偉業を称えています。



## 日岡御陵(地図中の③)

日岡山一带は日岡山古墳群と呼ばれ、その中の大きな前方後円墳が日岡御陵で、景行天皇の後・稲日大郎媛の墓です。后が亡くなり、日岡山に葬るため遺体を船に乗せて印南川(加古川)を渡ろうとした時、俄につむじ風が吹き、船が沈んでしまいました。後に褶(天女が背からかける布)と匣(櫛箱)だけが見つかり、これらを葬ったことから日岡御陵は「褶墓」とも呼ばれます。ここからの眺望はすばらしく、春は桜、秋は安産の神で名高い日岡神社の参道に秋の花が咲き、深い情趣が漂います。

## 高砂市

### 石の宝殿(地図中の④)

生石神社の社殿をくぐると、目前に立ちふさがる巨大な石造物・・・。横6.4m、高さ5.7m、奥行7.2m、推定重量500t、これこそ日本三奇石の一つ、生石神社の御神体です。圧倒的な存在感と靈気に驚嘆しながら一周すると、



背面に屋根のようなでっぱり・・・。つまり、大きな家を横倒しにした様な不思議な造形なのです。形の不思議さはもとより、いつ、誰が、何のために造ったのかも深い謎につつまれています。ただ、これが初めて歴史に登場するのが「播磨風土記」。それより推して、造られたのは七世紀初めの頃ではないかと考えられています。

この巨大な石造物は、いやが上にも古代史への夢と浪漫をかきたててきたのでしよう。蘇我氏が造ったという説から宇宙人が造ったという説まで諸説粉々です。そこで、二〇〇八年から日本文化財探査学会が調査を開始しました。それによると、上部に水分を含む所があるらしいということが分りました。今後の調査結果の分析に期待したいところですが、謎は謎のまま残りそうな気がします。ただ、有力な説として、大きな権力をもつ人物が造らせた墳墓の一種というのがあります。

さて、皆さんはどう推理されますか? 「百聞は一見にしかず」。是非とも石の宝殿におこしください。





**高砂神社** (地図中の⑤)  
石の宝殿に圧倒された後は、高砂神社を訪れましょう。この神社は、謡曲「高砂」と縁結びの神様で有名です。ここには、夫婦和合を表す「相生の松」という名高い松があります。そして、こんな言い伝えもあります。境内で松葉を拾った人は良縁と長寿に恵まれると。驚異の石の宝殿の後は、のんびりと松葉拾いをするのも一興です。

**稲美町**  
**万葉の森** (地図中の⑥)  
いなみ野万葉の森は、稲美町制三十周年記念として、昭和六十三年に造営された池泉回遊式の日本庭園です。万葉の森は、850㎡の敷地に、古代の印南野、印南の海 (印南野に面した瀬戸内海) や印南の川 (加古川) が、縮景式に造園されています。

園内の地形に応じてあらゆる万葉植物が植えられ、標識に植物名と万葉歌が記されています。奈良東大寺長老、清水公照書による、柿本人麻呂の名くはしき、稲見の海の 沖つ波 千重に隠りぬ 大和島根は

など、印南野万葉歌碑も散策道に点在しています。

池畔にある四阿 (茅月亭) からの眺めは四季折々に美しく、豊かな水と緑は心を潤してくれるようです。

また、ふるさと創生基金による「憩の館」では湯茶サービスを受けられ、訪れる人がホッとできるくつろぎの場として親しまれています。

**幻のワイナリー** (地図中の⑦)  
万葉の森に隣接して「播州葡萄園歴史の館」があります。平成八年に明治時代の国営ワイナリー「播州葡萄園」の遺跡が発見されました。その遺構から出土したワインボトルや年表などの資料を展示しています。跡地は国の史跡です。この跡地に立つと、活気溢れる明治の息吹きを感じることができます。

**播磨町**  
**大中遺跡と県立考古博物館** (地図中の⑧)  
明石市と加古川市の間に位置し、瀬戸内海に面した人口三万人余りの小さな町、播磨町。この町が「古代の村」として注目されるようになったのは、昭和三十七年に当時の中学生が多くの土器やその破片を発見したことが始まりでした。その後の発掘調査でここに弥生時代の大きな集落があったことが明らかに。なり昭和四十二年には「播磨大中国古代の村」と名付けられ、国指定の史跡となりました。住居跡は六十軒以上発掘され (調査

後は埋め戻しされています) 現在、堅穴住居が五軒復元されています。この村には三百軒を超える住居があったのではないかとされています。

この大中遺跡からは、土器やタコツボなどの出土品が多く、弥生時代後期の人々の暮らしがよく想像できるため、遺跡内の「播磨町郷土資料館」にはジオラマで生活の様子が再現されています。



**東播磨ゆかりの人たち**  
この東播磨にも有史以来数え切れないほど多くの人々の営みがありました。その中で語り継ぎたい郷土の人々についてその一部をここで紹介致します。

滝瓢水 (一六八四〜一七六二)  
加古川市生まれ。

「手にとるなやはり野におけ蓮華草」「さればとて石に布団も着せられず」等の句で知られる俳人。

工業松右衛門 (一七四三〜一八一二)  
高砂市生まれ。

厚手の木綿の織布を使って「松右衛門帆」を發明。北前船や蝦夷地開拓にも多くの業績を残す。

ジョセフ・ヒコ (一八三七〜一八九七)  
播磨町生まれ。本名は浜田彦蔵。十三才の時江戸からの帰路嵐に遭遇。運良く救助され渡米。その後カトリックの洗礼を受け、米国に帰化した日本人第一号である。また日本で初めての新聞「海外新聞」を発刊し「新聞の父」と呼ばれる。

美濃部達吉 (一八七三〜一九四八)  
高砂市生まれ。

天皇機関説を唱えた憲法学者。戦後は日本国憲法の草案審議に携わった。東京都知事を務めた亮吉 (一九〇四〜一九八四) は彼の長男。

佐々木すぐる (一八九二〜一九六六)  
高砂市生まれ。本名は英。

今も愛唱されている「月の砂漠」や、私達が小学生の頃学芸会でよく耳にした「お山の杉の子」などの作曲家。

(田中明、玉田、中田、永田、一木、渡辺 記)



平成20年度 佐保会兵庫県支部役員

役 職 名	氏 名	卒業年学部	住 所
支 部 長	山本よしみ	(S33 家食)	西 区
副 支 部 長	川口登美子	(S39 家食)	川西市
事 務 局	鈴木 久子	(S37 家食)	尼崎市
	寺田 翠	(S37 文幼)	明石市
	西池 節子	(S38 理教)	北 区
	三枝 瑤子	(S38 文英)	中央区
名 簿 管 理	古山美智子	(S40 理教)	西 区
ホ ー ム ペ ー ジ	高階 時子	(S48 文国)	加東市
	和田 珠子	(H10人博生)	西宮市
会 計 監 査	実方 充代	(S32 文幼)	尼崎市
	藤岡 利子	(S38 家被)	尼崎市
楨 の 会	射延 瑞枝	(S42 家被)	三木市
	大塚かよ子	(S44 文幼)	姫路市
本 部 理 事	秋里三和子	(S27 文)	北 区
	貴田 康乃	(S29 家住)	西宮市
本 部 評 議 員	山本よしみ	(S33 家食)	西 区
	鈴木 久子	(S37 家食)	尼崎市
	川口登美子	(S39 家食)	川西市
	瀬川 順子	(S41 文英)	中央区
佐保会学園理事	織部ミチ子	(S29 家食)	兵庫区
佐保会学園評議員	秋里三和子	(S27 文)	北 区
大学婦人協会役員	大林 冷子	(S33 家被)	尼崎市

事務局だより

平成19年度事業報告  
平成19年4月5日(木)

支部役員会

5月12日(土)

支部総会(於：舞子ピラ神戸)

8月23日(木)

地区リーダー会

11月1日(木)

第31号「支部だより」発行(明石市担当)

11月10日(土)

「睦会」(於：舞子ホテル、昭和39年卒業生担当)

20年1月14日(月)

支部だより引き継ぎ会

平成20年度事業計画

平成20年4月3日(木)

支部役員会

5月10日(土)

支部総会(於：舞子ピラ神戸)

8月23日(土)

地区リーダー会

11月1日(土)

第32号「支部だより」「名簿」発行

(加古川市、高砂市、稲美町、播磨町担当)

11月15日(土)

「睦会」(於：舞子ホテル、昭和40年卒業生担当)

21年1月8日(木)

支部だより引き継ぎ会

平成19年度会計報告並びに平成20年度会計予算

支出の部

費 目	平成19年度決算	平成20年度予算	
本部会費	974,500	900,000	
總會補助費	156,890	150,000	
通信費	292,745	250,000	
印刷費	34,440	60,000	
交通費	65,920	80,000	
事業費	名簿印刷費(積立)	100,000	0
	名簿送料	0	0
	支部便り印刷費	200,000	200,000
	睦会補助	50,000	50,000
	楨の会	70,000	70,000
リーダー会経費	46,956	70,000	
もより会補助	92,500	110,000	
慶弔費	72,960	100,000	
事務費	99,172	160,000	
予備費	0	100,000	
小計	2,256,083	2,300,000	
次年度繰越	3,971,958	3,931,960	
合計	6,228,041	6,231,960	

収入の部

費 目	平成19年度決算	平成20年度予算
会 費	2,449,000	2,200,000
内 本部会費	974,500	900,000
訳 支部会費	1,474,500	1,300,000
貯 金 利息	379	2
本部より補助	73,400	60,000
雑 収 入	0	0
寄 付	2,000	0
小 計	2,524,779	2,260,002
前年度繰越	3,703,262	3,971,958
合 計	6,228,041	6,231,960

編集後記

今年には原油の高騰、諸物価の値上げ、環境破壊による異常気象と暗いニュースの多い中で、8月には「一つの世界、一つの夢」をスローガンに北京五輪が開催されました。オリンピックは参加することに意義があると言われる。私達もこの「支部だより」の編集に参加させていただき、またとない機会に恵まれ、多くの得難い体験ができました。この1年間編集委員全員でいつも仲良く、楽しく、賑やかに考えてきました。また快く原稿を寄せていただきました執筆の方々、そしていろいろとご指導・ご支援をいただきました事務局の方々など、多くの方々のお力添えをいただきまして、今日を迎えることができました。編集委員一同心よりお礼申し上げます。不備な点も多々あると思いますが、これからもご指導よろしくお願い申し上げます。(永田)

(編集委員 塩谷、中田、目加田、二木、小林、田中、田中明、玉田、永田、金築)

資産内訳 (平成20年3月31日現在)

定額郵便貯金	1,850,000円
郵便貯金	309,353円
振替貯金	1,812,605円
現金	0円
合計	3,971,958円
名簿印刷用積立金	500,000円